



黒金寛行さん 第23回日本管打楽器コンクール・トロンボーン部門 第1位

「バックの魅力はまず音色、そしてキャパシティの広さ」

東洋の2大コンクールをBACH
バストロンボーンで制覇！

昨年開催された第23回日本管打楽器コンクールのトロンボーン部門は、前回の篠崎卓美さんに引き続きバストロンボーンの黒金寛行さんが優勝！(二人ともバックのバストロンボーンを使用)
黒金さんは、同年、韓国の済州で行なわれたプラスコンペティションでもグラ



黒金寛行 (くろがねひろゆき)
福島県出身。東京藝術大学3年在学中。第4回テェジュ・プラスコンペティション・バストロンボーン部門第1位、及びグランプリ受賞。N響アカデミー生。

ンプリを受賞しており、現在まだ芸大の3年生。N響アカデミー生としてNHK交響楽団のエキストラとして活躍している逸材だ。

「バストロンボーンというと、重くて機動性がない地味な楽器と思われるがちですけど、そうならないように心掛けました。「バストロなのに頑張っているね」という風に思われなくなかった。音色に聞しても、テナーとかバスにかかわらず、いろんな音色を出せるのが一番良いと思

うので、なるべく、今の自分が出せる限りの音色の幅を使おうと心掛けました。バストロンボーンらしいと思われている音だけでなく、明るい音色などいろいろと」

今後世界のコングールに挑戦していくのだろうか。
「残念ながら、バストロンボーンが参加出来るコンクールはあまりないと思うんですけど、機会がある限り受けに行きたいと思っています」

黒金さんは、今、東京藝術大学の3年生だが、N響アカデミー生でもある。

「去年の7月からアカデミー生をやっています。秋山鴻市先生が退団されてからバストロンボーンの席が空いているので、N響にはこれまで何回かエキストラとして参加させてもらっています」

楽器はバック一筋。音色の良さとキャパシティの広さが魅力

楽器はバックのバストロンボーンを愛用している。

「高校2年の冬に初めて自分の楽器を買ったときからずっとこの楽器を使っています。バックの音が好きだったので、買うときはバックを、と考えていたんです。バックの魅力は、まずその音色の良さ。それと音楽を表現するときのキャパシティの広さです。最初は、そのキャパシティの広さに戸惑ったこともあったけど、すぐに慣れました。僕は、バストロンボ

ステージではポジティブに考えるのが僕の秘訣

おしまいに、コンクールを目指している人にアドバイスをいただいた。

「誰でもステージに立つと緊張してしまうと思うのですが、僕はそれを良い集中力に切り替えるようにしています。ミスをしたときでも、「いつもだったら吹けたのに」と考えると悪い方向に行ってしまうけれど、「いつもこうだったよな」という風にポジティブに考えてしまえば、気持ちは楽になるはず。バストロンボーンだから高音域は駄目だと思っている人もいるかもしれませんが、そうではなくて、バストロンボーンの高音域も独自の良い音があることを知ってほしいですね」

黒金さんの未来は、愛器バックとともに、まさにこれから大きく開こうとしている。



貝沼拓実さん 第4回ディナン国際サクソフォン・コンクール(アドルフ・サククス国際コンクール) 第3位

「表現したいことのすべてを音にできるのはセルマー・サクソフォンだけ」

中学、高校の頃から
ずっとあこがれていました

サクソフォン界で最も権威のある国際コンクールは、サクソフォンの発明者アドルフ・サククスが誕生したベルギーのディナンで1994年から4年に一度開かれている「アドルフ・サククス国際コンクール」だ。2006年はその第4回目の開催年にあたり、世界中から100名を越す有能な若手演奏家が集まりその技を競った。そのなかで日本から出場した貝沼拓実さんが見事第3位入賞を果た

した。そこで今回、この偉業を達成したばかりの貝沼さんの素顔にせまってみた。貝沼さんが始めてサクソフォンを手にしたのは中学校の吹奏楽部。

「打楽器をやったかったんですが、顧問の先生にすすめられてバリトン・サククスを3年間吹きました。自分の楽器を持つたきっかけは、高校受験のときに、親から希望していた県立木更津高校に合格したらサククスを買ってくれろといわれたこととです。必死に勉強しました(笑)。おかげで合格し、念願のセルマーのアルト(シリーズII)を買ってもらいました」
高校でも吹奏楽部に入部。将来は教師

か音楽家になるという夢をいだきながら、あこがれの楽器を手に吹奏楽に明け暮れる毎日を送っていた。そんな貝沼さんの生活に大きな変化が起きたのが、高校1年の秋だった。

「アンサンブルコンテストに出るため、サククス四重奏の練習をしていたんですが、そのときからサククス四重奏に魅力を感じるようになり、さらにクラシック音楽を演奏しているときの音に強くひかれるようになりました」

そして、音大受験を決心。
「ずっとピアノを習っていたので、できればピアノもサククスも一流の学校で勉強したいと思い東京藝術大学を受験することにしました。一浪はしましたが、入学することができました」

クローバーSQでさらなる飛躍を

じつは、貝沼さんはピアノの名手でもある。大学1年のときに管打楽器奏者の登竜門として知られる、日本管打楽器コンクールに出場した3人の伴奏者を務めたエピソードをもっている。そのコンクールに3年生のとき(2002年)に自ら出場して4位入賞を果たし、翌年には第1回ノナカサクソフォンコンクールで3位入賞、2005年の管打楽器コンクールでは2位入賞を果たすという輝かしい実績を積み重ねてきた。そして迎えたアドルフ・サククス国際コンクールでは、様々な演奏スタイルを持つ人々が集まる、世界と高いハードルをクリアして堂々の3位入賞。

2007サクソフォン・スプリングセミナー in 北九州

〔期 日〕 2007年3月31日(土)～4月3日(火) ※3泊4日
〔講 師〕 大城正司、貝沼拓実、江川良子
〔会 場〕 北九州市立「玄海青年の家」
〔問合せ〕 野中貿易 junichi.hisamatsu@nonaka.com

「クローバー・サクソフォン・クワルテット」デビュー・リサイタル

東京公演
〔期 日〕 2007年5月11日(金)
〔会 場〕 東京文化会館 小ホール 18:30開場/19:00開演
〔問合せ〕 インターミュージス・トーキョウ 03-3475-6870
大阪公演
〔期 日〕 2007年5月19日(土)
〔会 場〕 ドルチェ・アーティスト・サロン 18:00開場/18:30開演
〔問合せ〕 ドルチェ楽器 06-6377-1117